

事例7 個別最適な学びを意識して、児童の主体的な学びへと繋げる跳の運動遊び

○学年 第2学年

○単元名 ピョンピョンランドでとんでいけ！（跳の運動遊び）

○事例のポイント

- ①運動遊びに夢中になって取り組める教材を活用し、児童一人一人が学習を深め、広げるための工夫。
- ②低学年の体育授業で、児童の資質・能力をバランスよく育むための指導計画。

ICT活用した主な学習場面

児童が決定しためあてや振り返りを共有する場面

ICT活用の利点

- ①児童が決定しためあてを把握できるようにICT端末で可視化することで、教師が見取り、フィードバックすることができる。
- ②児童の振り返りに音声入力を用いることで、文章表現が苦手な児童への支援ができる。
- ③振り返りで入力した言葉をテキストマイニングで焦点化することで学習のまとめに繋げることができる。

1 単元名 ピョンピョンランドでとんでいけ！（跳の運動遊び）

2 運動の特性

(1) 一般的特性

前方や上方に跳んだり、片足や両足で連続して跳んだりする動きで、跳ぶ距離や高さ、リズムを変えることで楽しさを感じることができる運動遊びである。

(2) 児童から見た特性

跳の運動遊びの楽しさや喜びを感じる要因	跳の運動遊びを遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none">・より遠く跳んだり、高く跳んだりできたとき。・リズムよく連続で跳ぶことができたとき。・友達に認めてもらって運動遊びができたとき。	<ul style="list-style-type: none">・跳び方がわからず、遠くや高く跳べないとき。・リズムよく連続で跳ぶことができないとき。

3 児童の実態 (略)

事例のポイント①

発達の段階に合った遊びの要素を入れることで、夢中に取り組める教材となり、児童がめあてをもって進んで学習に取り組めるようにする。

4 指導観

(1) 知識及び技能

助走を付けて片足で踏み切り、前方や上方に跳んだり、片足や両足で連続して跳んだりする動きを身に付けることができるようにする。そのためには、児童が運動遊びの中で、より遠くや高く、リズムよく跳びたいという意欲が湧いてくる環境の設定が必要である。そこで、低学年の発達の段階を踏まえて、ピョンピョンランドという単元名をテーマに川跳びパーク、ゴム跳びパーク、ケンパーパークの3つの場を設ける。川跳びパークでは、いろいろな川幅を短い助走から跳ぶことで、前方に跳ぶ動きの習得を目指す。ゴム跳びパークでは、いろいろな高さのゴムを跳ぶことで上方に跳ぶ動きの習得を目指す。ケンパーパークでは、いろいろな間隔に置かれたケンステップや足形をリズムよく跳んで踏んでいくことで、片足や両足で連続して跳ぶ動きの習得を目指す。教師が児童自身の選んだ遊び方を肯定しながら適切なフィードバックをすることで、学習内容が身に付いていくようにする。

(2) 思考力、判断力、表現力等

低学年の児童にとって、友達のよい動きを見付けることは難しい。そこで、視点となるキー

ワードを与えることで、気付いたことや考えたことを友達に伝えることができるようにしたい。友達のよい動きを「遠く、高く、リズム」というキーワードを強調して示す。また、児童同士でよい動きを確認し、考えたことを伝え合うような場面を設定する。運動遊びの工夫を考える時間では、川跳びパーク、ゴム跳びパーク、ケンパーパークの3つから児童が選んだ場で、環境を少しずつ変えていくようにする。川跳びパークでは、川幅の距離や川の形、ゴム跳びパークでは、ゴムの高さや置き方、ケンパーパークでは、ケンステップや足形の置き場所等を同じ場に集まったメンバーで決めるようにする。自分だけでなく、周りの友達も楽しめる工夫ができるようにする。

(3) 学びに向かう力、人間性等

児童がピョンピョンランドで、意欲的に運動遊びをしていくために、オリエンテーションや掲示物を工夫する。単元を通して、自分やみんなが楽しく運動遊びをするためにどうするかを考えられるように伝えていく。そのために、楽しい体育授業のポイントを、①進んで運動に取り組むことができる②誰とでも仲良く協力できる③順番やきまりを守って、安全にできるという3点を示し、児童が常に意識できるようにする。第1時のオリエンテーションでルールを確認し、それらを伝える。そして、トリオでの活動や偶発的に他者と関わる場面できまりや順番を守ることや場や用具の安全に気を付けて運動遊びを行うようにする。

5 単元の目標

- (1) 跳の運動遊びの行い方を知るとともに、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすることができるようにする。 〈知識及び技能〉
- (2) 簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 跳の運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①跳の運動遊びの行い方を言ったり、実際に動いたりしている。 ②助走を付けて片足でしっかり地面を蹴って、前方や上方に跳ぶことができる。 ③片足や両足で連続して跳ぶことができる。	①友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。 ②跳ぶ距離や高さを変えて、運動遊びの仕方を選んでいる。	①跳の運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ③場の安全に気を付けている。

7 単元の計画

- (1) 領域の取り上げ方（略）
- (2) 領域の内容と目指す動き

学年	内容	目指す動き
1年	跳の運動遊び	前方や上方に跳んだり、片足や両足で連続して跳んだりする。
2年	跳の運動遊び	助走を付けて片足で踏み切り、前方や上方に跳んだり、片足や両足で連続して跳んだりする。

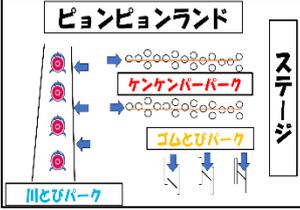
8 本時の学習指導（本時5／7時）

(1) ねらい

- ・友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えることができるようにする。
〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 準備（略）

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 10分	1 集合・挨拶・健康観察をする。 2 準備運動をする。 ・徒手体操 3 感覚づくりの運動 ・言うこと一緒、やること一緒 ・グリコじゃんけん  4 場の準備をする。	○身なりを整えて、挨拶をして、気持ちよく学習が始められるようにする。 ○リズム太鼓の音と教師が言葉かけをしながら徒手体操を行う。落ち着いた雰囲気の中で各部位をしっかりと動かしていくようにする。 ○高い意欲で精一杯に体を動かしている児童を積極的に称賛していくことで、授業が活気ある雰囲気で行えるようにする。 事例のポイント① 「高く、遠く、リズム」や「楽しく遊ぶためのきまり」等のキーワードを意図的に教師の言葉かけに入れる。 ○安全・安心・効率的に行えるような用具・場で行う。 ○児童に話をするときには腰を下ろして目線を合わせることで、教師との対話に集中できるようにする。
	5 本時のねらいと学習内容を確認する。	○安全・安心・効率的に行えるような用具・場で行う。 ○児童に話をするときには腰を下ろして目線を合わせることで、教師との対話に集中できるようにする。
展開 28分	6 やってみたいタイム [運動遊び] (友達のよい動きを見付ける) ・3つのパークから1つ選び、同じパークの友達とよい動きを見付ける。 【川跳びパーク】  【ゴム跳びパーク】  【ケンパーパーク】  ・よい跳び方をまねして試す。	○前時までの振り返りを取り扱って、よい動きとは、遠くや高く、リズムよく跳ぶことであることを確認する。 事例のポイント② 前時までに運動遊びの仕方や動きのポイントを確認している。児童のやってみたいやもっとよい動きになりたいという気持ちから3つのパークの中から選び取り組む。 【3つのパーク（場）】  ○児童がルールやきまりをしっかり理解してから活動をする。 ○助走の距離や速さがよい動きに繋がっていることに気付くように意図的に模範となる児童を称賛していく。 ○教師は全体を見渡せる位置に立ち、安全面を確認しながら活動が進んでいない児童に言葉かけをしていく。 ○低学年児童の発達の段階を考慮して、動きながら思考していくようにする。また、動いている中で友達の動きのまねをしていないグループは本時のねらいを確認し、意識できるようにする。 ○よい動きを見付けるときの判断ができるように川跳びパークでは踏み切りの位置と着地の位置、ゴム跳びパークではゴムに付いた鈴の音、ケンパーパークでは口伴奏に合っているかに注目するように伝える。

編 P134 指導計画の留意事項（1）

ピョンピョンランドで友達のよい跳び方をまねしよう。

7 エンジョイタイム
 [自分に合った仕方運動遊び]
 (友達のよい動きをまねする。)
 ・別のパークの友達とトリオになっ
 て、よい跳び方を見合う。



○エンジョイタイムでは、各パークで見付けたよい動きをトリオに伝えて動きを紹介する。その動きをまねして跳んでみる。

ICT活用の利点①

児童が決めた活動場所をラベルの色に分けて可視化する。トリオになって見合う場面で、他児童がどの場でめあてを持って活動したのかを明確にする。

◆単元の評価規準

友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。

(観察・学習カード)【思考・判断・表現】

△努力を要すると判断される状況(C)の児童への指導の手立て

- ・教師が積極的にかかわり、動きの模範とする児童を紹介したり、場(パーク)を児童の実態に合ったところで試すように促したりする。また、言葉での表現が難しい場合は動きで表すように声かけをする。

◎十分満足できると判断される状況(A)の児童の具体的な姿

- ・助走の距離をとって、一連の動きがスムーズな児童を見付けて、まねをしている。また、よい動きには助走が必要であることを伝えている。

編 P135 指導計画の
 留意事項(2)

8 ヒーローインタビュータイム
 (振り返り)
 ・ペアで ICT 端末の音声入力を活用し、個人の振り返りをする。



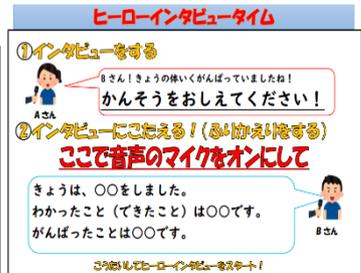
ICT活用の利点②

児童の振り返りを音声入力で、ICT 端末に入力することで文章表現が苦手な児童への支援とする。

○振り返りはペアになって、インタビュー形式でICT端末を活用して、音声入力をする。デジタル教材共有・作成ツールに入力することで教師が即時把握できるようにする。

ヒーローインタビュータイム(振り返り)

- ①タブレットでスクールタクト(体いく)の振り返りかえりページをひらく!
- ②ペアで一人ずつインタビューにこたえる!(きょうの振り返りを音声入力する)
- ③ていじゅうつし、タブレットしまってせいれつをする!



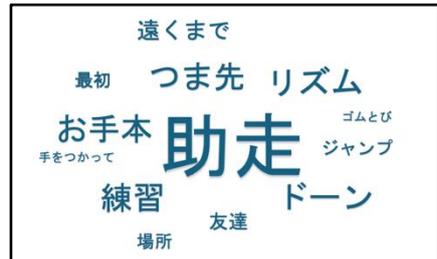
9 全体でまとめをする。
 ・テキストマイニングのツールを活用し、まとめをする。



ICT活用の利点③

振り返りで入力した言葉をテキストマイニングで学習内容のキーワードを焦点化して、まとめに繋げていく。

○本時のねらいに沿って学習できていた児童のめあてや振り返りを紹介して、全体に広めていく。
 ○振り返りをテキストマイニングして、本時のまとめに繋がる言葉を焦点化する。



整理
 7分

10 整理運動をする。

11 健康観察、挨拶をする。

○使った部位を重点的にほぐすようにする。
 ○次時の予告をして、意欲を高める。
 ○児童の様子を観察し、健康状況を確認する。
 ○元気よく挨拶して終了する。